

**CASBEE-広島 2014年版**  
**広島テレビ放送新社屋**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.4</b>	0.15	-	-			<b>3.4</b>
1.1 騒音	一般事務室はNC40、スタジオはNC25にて計画	4.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.61	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.39	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.3</b>	0.35	-	-			<b>3.3</b>
2.1 室温制御		<b>3.7</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
3 ゾーン別制御性	空調システムを40㎡以下に細分化及び冷暖同時型エアコンの採用	5.0	0.37	-	-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.9</b>	0.25	-	-			<b>2.9</b>
3.1 昼光利用		<b>2.4</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		2.0	0.59	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.41	3.0	-			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.29	-	-			
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度	執務室の照度を750Lxに設定	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.26	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.2</b>	0.25	-	-			<b>3.2</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 換気量	一般居室は25m <sup>3</sup> /h・人にて計画	3.0	0.34	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.34	3.0	-			
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視	主要系統にCO <sub>2</sub> センサーを設置	5.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.4</b>	0.40	-	-			<b>3.4</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.6</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	執務室は、1人当たり9㎡以上の広さを確保	4.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	執務室の床はOAフロアとし、電気容量45VA/㎡を確保	4.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.35	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	事務エリアの天井高さはCH2.7m以上確保。物販との加重平均。	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画	インテリアパース、コンセプトシートを作成し決定	4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.4</b>	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	免震構造の採用	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	免震ピットおよび屋外が対象で、対象部のダクトはすべてガルバニウム	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:ライニング鋼管(B)、消火:SGP(C)、冷媒:銅管(C)	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			4.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	熱源の電気・ガス2重化、重要系統はバックアップ機設置	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水便器、緊急排水槽、雨水利用、非常用水栓	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	浸水対策、非常用発電機・無停電電源設備による電源のバックアップ	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	免震建物につき、非常時でも機能維持	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	浸水対策、通信機器の電源のバックアップ(発電機、無停電電源設	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高さは各階3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	基準階平面 壁長さ比率 0.18	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	主要空調配管は屋上および機械室内に設置	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	主要衛生配管はPSIに設置。給水箇所をほぼコア側に限定。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	機器搬入ルートの確保、EPS、点検口による配線作業スペースの確保	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	機器搬入ルートの確保、EPS、点検口による配線作業スペースの確保	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	大型機器は屋上、その他はELVで搬出入可能	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	設備バルコニーおよび屋上に更新スペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観事前協議において、美観形成基準を満たしている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	前面道路路面を歩道区間として整備、視線をさえぎらない樹木計画	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		LOW-Eガラスの採用、縦ルーバーによる日射遮蔽	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.08 住宅(専有部) -	3.9	0.50	-	-	3.9
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率機器の採用、LED照明の採用	3.9	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMS装置でエネルギー消費量を把握	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	エネルギー消費目標量を算出	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1	節水	節水型便器、擬音装置設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	人工木デッキ(エコマーク商品)	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内部間仕切りは、乾式とし、躯体とは分別が可能計画	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		LCCO2の排出は一般的な建物とほぼ同等	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	広島市雨水抑制に関する指導要綱に基づき、雨水貯留槽を設置	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場の確保、駐車場は附置義務基準の台数を隔地駐車にて確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	